４２．林　良祐氏（TOTO 株式会社 取締役専務執行役員）

「イメージを払拭し、次世代の方が安心して住むことができるまちに」

林　良祐（はやし　りょうすけ）
1987 年に給湯機開発部門に入社。その後、茅ヶ崎の研究所を経て、次世代トイレ「ネオレスト」の開発に成功。
米国における節水トイレを開発後、日本において、瞬間式次世代ウォシュレット「アプリコット」の開発に成功し、長く最先端のトイレ開発に従事。
2011 年に執行役員ウォシュレット生産本部本部長、
2020 年に現職である取締役専務執行役員に就任。

「これまでのイメージの払拭を」

「ものづくりのまち」である北九州市において、当社は本社を「パイロットプラント」として位置づけています。最先端の製品をこの地で開発し、商品化する、そして生産は全世界で、という構造です。これまでの「ものづくりのまち」というイメージとは少し異なります。今後は、これまでのイメージを払拭して、単なる製品の生産というものづくりの時代は終わったのだ、ということをアピールしていくことが重要ではないでしょうか。

「誰もが働ける、安全安心なまちづくり」

北九州市には、障がいのある方が多く働く、市も出資する当社のグループ会社「サンアクアＴＯＴＯ」があります。設立当初は、単に身体障がいのある方が働ける場所としてスタートしましたが、今では精神障がい、知的障がいのある方も働ける場になっています。安全に会社に来て、安全に帰って、また次の日へのモチベーションをもって会社に来るということは、実は非常に難しいことです。一緒に働いている健常者にも知識と理解が必要になります。加えて、地域の理解や家庭、病院等とのつなりなどの体制が構築ができていないと会社は成り立ちません。

その中で、同社では「自動化」ではなく、「多能工化」を進め、雇用を維持するとともに、誰もが代打ができる状況をつくっています。働いている方は、毎日来ることができない場合や遅れて来る場合もあるため、このような工夫が必要となります。

サンアクアＴＯＴＯを経営する中で、工場内のみならず、地域全体での交通インフラ、情報網、絆を構築することの重要性を認識し、これが安全、安心のまちにつながることを身をもって感じています。つまりは、工場におけるものづくりだけでなく、地域創生にもつながるわけです。このような取組や視点を北九州市にも大事にしていただきたいと思います。

「他に無いシチュエーションを上手く活用」

社業とは視点を異にしますが、北九州市には素晴らしいゴルフ場があります。また、交通アクセスが良く、美味しい料理もあってというシチュエーションは他にはなかなかありません。世界から VIP に来てもらい、お金を落としてもらうために、ホテルのスイートルームの増設や門司港と旧松本邸のディナーコースのツアーを組むなどでアピールしてはどうでしょうか。

また、小倉城など名所旧跡もあります。今後、インバウンドにも人気が出てくるはずで、今は福岡市に流れているアジアを中心とした海外からの旅行客も多く来てくれるのではないでしょうか。

コンパクトにまとまっていることが北九州市の大きな魅力だと思います。加えて、足立山、皿倉山、響灘などの自然も上手く活用した方が良いと考えます。

「市とともにグリーンエネルギーの拡大を」

最近、衛生陶器工場の 70 年使ったレンガ窯を閉じました。かつては荒天の際、災害を防ぐため、窯の火を落としていましたが、窯の温度が 100 度以下まで下がるには 24 時間かかっていました。それが新しいステンレス窯に代わり、コントロールしやすくなるとともに、作業員が土日に休めるようになりました。

エネルギー源も重油から LNG に代わり、生産性が向上しましたが、今後のさらに環境負荷軽減に向けた熱源研究を既に始めています。グリーンエネルギーについては、そのつくり方、使い方が今後の大きな課題でしょう。100%を実現するには世界的にも莫大なエネルギーとコストが必要となります。その点をどのようにアピールしながら取り組んでいくかが課題と考えています。この取組については、ぜひ行政と一緒にやっていきたいと考えています。

また、当社の商品を設置いただくことで、衛生的で安全・安心、かつ節水につながると考えています。当社は上水と下水を安全につなぐことができる会社であり、世界におけるクリーンなエネルギーでサステナブルな商品の展開を目指していきたいと考えています。

「『変わること』と『続けること』を『やり遂げる』」

やはり北九州市は、「変わること」と「続けること」を「やり遂げる」ことが大切なのではないでしょうか。時代の変化に合わせ、柔軟に「変わること」はもちろん、先述したように、障がいのある方が安全に仕事に行き、帰れるまちというのは素晴らしいことです。これを続け、やり遂げることが大事です。

「稼げるまち」という意味では、当社の最先端のトイレやウォシュレットはこの北九州市の地で開発されています。また、ＴＯＴＯでは衛生陶器のようなオールドセラミックに加え、半導体関連部材であるアドバンストセラミックの両方を製造しています。その過程では、他都市の工場などとも連携し、人も入れ替えながら進めています。また、リモートでのやり取りも増えてきたことで、移動時間が少なくなり、世界との交流も容易なっています。このように世の中の動きは速くなっています。

北九州市はコンパクトなまちですので、このスピード感を捉えることができれば、新ビジョンの３つの歯車はきっと上手く回るのではないでしょうか。

「トイレを通じて次世代が安心して住めるまちづくり」

渋谷区では公共トイレを再整備しましたが、各々建築が異なり、多機能で、例えば、導入した液晶に 76 億 8 千万通りの表示ができるものなど、そのあり方が変わってきています。

北九州市でもこのようなことができればと考えています。安全安心で集える公園には良い公共トイレが必要です。

トイレを例にしましたが、次世代の皆さんが安心して住めるまちづくり、他から羨ましいと言われるまちづくりが理想でしょう。

「聖地として集まるまち」

世界各国のＴＯＴＯの工場で働く技術者が集まり、技を競うコンテストも北九州市で開催され、聖地として世界から人が集います。

ベトナムをはじめとする海外各地の激戦を勝ち抜いてきた技術者は、東京よりも北九州市に来たいという憧れを持っています。その折を利用して、コロナ禍前は年度末の社長表彰時に小倉城等に連れていくツアーを組み、北九州ファンづくりを行っていました。

北九州市に魅力的な資源がたくさんあります。ぜひ生かしていただきたいと思います。